

令和6年度 事業報告

I 公益目的事業に関する事項

令和6年度においては、公益目的事業として、農業及び農村に関する調査研究、農業及び農村に関する調査研究の成果の普及、農業及び農村に関する調査研究の助成並びに農業及び農村に関する学術上の顕著な貢献をした者の表彰に係る事業を行った。

1 農業及び農村に関する調査研究

(1) 研究員による個別研究

各研究員の研究成果を『農業研究』に掲載した。(別添参考)

坪田邦夫研究員

「世界食料需給中長期見通し：再考」

生源寺眞一研究員

「政策の論文に現れた学会の特色：三つの学会の比較」

町田勝弘研究員

「食料・農業・農村基本法について」

河原昌一郎研究員

「中国の食糧安全保障政策」

矢坂雅充研究員

「牛乳の価格形成と需給調整」

田家邦明研究員

「改正基本法を受けた「合理的な費用を考慮する仕組み」の課題について」

「森林の循環的利用の確保のための更新の促進について

—森林法と森林経営管理法の連携—」

岩元明久研究員

「わが国近世までの牛馬飼養の歴史 下」

吉岡修研究員・岩元明久研究員

「自給飼料を利用した和牛繁殖の実証的調査研究(12)」

(2) 研究会方式及び研究企画委員会方式による研究

研究会のテーマについて、研究員が主査となって外部の研究者と本研究所研究員から成る委員会を設置し、また、研究企画委員会についてはそれぞれ以下のとおり研究を行った。

① アジア食料農業政策研究会

主査 坪田邦夫研究員

標記テーマの研究会の個別報告は、令和4年2月に「変容するアジア食料農業と農政」(日本農業研究シリーズNo.26)として刊行した。令和6年度は、そのとりまとめとして、OECDによる政策指標データを用いて、アジアの7か国(日本、韓国、中国、インド、インドネシア、フィリピン、ベトナム)の農業政策の変化を比較・分析した結果を『農業研究』(第37号)に掲載した。

② 農業・農村の諸課題に関する研究企画委員会

農業・農村の諸課題について、興味深い論文を発表した研究者等を招聘し、報告を聴取し、意見交換を行うとともに、その者の了解を得て関係資料等についてホームページに掲載し、関係者に対し情報公開した。

令和6年度研究企画委員会

第1回（令和6年7月23日開催）

講師：小田 志保氏

「フランスの農畜産物のサプライチェーンとエガリム法に関する議論」

第2回（令和6年11月12日開催）

講師：河村 仁氏

「基本計画の方向性」

（3）農業及び農村地域の動向に関する調査研究

農業及び農村に関する調査研究を行っている若手研究者を研究員に委嘱し、地域の動向に関する調査研究を行うこととし、令和6年度においては、引き続き、森田明氏（宮城大学食産業学群教授）、山浦陽一氏（大分大学経済学部准教授）、小澤 卓氏（公益財団法人日本離島センター総務部総務課長）、新たに小川真如氏（宇都宮大学農学部助教）に委嘱した。

その調査研究成果（森田明氏「2020年の法改正による農業者年金制度の検討」、山浦陽一氏「中山間地域の集落営農法人の展開方向一定点観測2-3-1」、小澤卓氏「八丈島の花弁栽培農家の研究（その1）」、小川真如氏「2024年夏におけるコメの品薄の要因と課題―「令和の米騒動」と呼ばれた事象をめぐる総合的研究―」）を『農業研究』に掲載した（別添参考）。

（4）実験農場における調査研究

実験農場においては、令和3年度から開始した黒毛和牛の繁殖雌牛の飼育及び子牛生産並びに露地野菜（キャベツ等）の生産を行う複合経営に関する成立条件の実証調査研究の定量的定性的データの本格的な収集・分析を続け、畜産部門の研究員及び農業技術・野菜部門の研究員の2名体制で調査研究を行った。その研究成果を『農業研究』に掲載した。

なお、実験農場の運営に当たっては、「実験農場連絡協議会」を設け、事業の実施状況等の把握を行った。

また、外部の学識経験者から成る「実験農場調査研究生産活動事業審査会」を設け、上記事業実施状況等の報告について意見を聞いた。

2 農業及び農村に関する調査研究の成果の普及

1の調査研究の成果を『農業研究』に掲載し、大学等の関係方面に配布するとともに、ホームページに公表したほか、株式会社かまくらや 藤本孝介氏他4氏を招き、講演会を開催し、参加者との質疑応答を含め、その講演録を『農業研究』の別冊として、大学等の関係方面に配布するとともに、ホームページに公表した（別添参考）。

令和6年度講演会

第1回（令和6年6月14日開催）

講師：藤本 孝介氏

「社員から社員へ繋ぐ、持続可能な農産業の実現
～サラリーマン農業でイキイキと活躍する会社へ～」

第2回（令和6年6月19日開催）

講師：杉中 淳氏

「食料・農業・農村基本法の改正と今後の政策の進め方について」

第3回（令和6年7月10日開催）

講師：横田 修一氏

「データ駆動型農業とは何かー農業経営の実践から見えてくるものー」

第4回（令和6年9月10日開催）

講師：坪田 邦夫氏

「日本の食料安全保障管見ー3つのコトバの呪縛ー」

第5回（令和6年10月16日開催）

講師：関谷 直也氏

「東日本大震災と風評被害」

3 農業及び農村に関する調査研究の助成

農業及び農村に関する調査研究の将来の担い手に、その調査研究に対し助成し、併せてその成果を普及するため、平成19年度から「人文・社会科学系若手研究者助成事業」を実施している。令和6年度については、応募者から3名を選考し助成を行った。令和7年度にこの成果の報告を聴取し、研究成果として普及するのにふさわしいと認められた場合、令和7年度に発刊予定の『農業研究』に掲載する。

大井 匠（宇都宮大学大学院地域創生科学研究科）

「地域条件に合わせた集落営農の変貌～非農家との関係強化に注目して～」

岡久 花衣（神戸大学大学院農学研究科）

「ローカルフードコミュニティによる地域食継承のシステムの解明」

棕田 瑛梨佳（千葉大学助教）

「有機栽培経営におけるウェルビーイング（Well-being）経営の実現に向けた実証的研究」

4 農業及び農村に関する学術上の顕著な貢献をした者の表彰

第31回（令和5年度）日本農業研究所賞3名の受賞者に対する授賞式を、令和6年5月10日に開催し、表彰状及び賞金（100万円）を授与した。なお、受賞者は、次のとおりである。

受賞者

（五十音順）

研究業績の題名

古賀 博 則：電子顕微鏡観察等によるイネいもち病の感染防御機構の解明およびエンドファイトの害虫防除への利用

堂 地 修：牛の凍結受精卵の移植技術の簡易化に関する研究と普及
中 村 俊 樹：モチ小麦等新形質小麦の開発と社会実装

Ⅱ 収益事業

日本農業研究会館等の当研究所で使用していない部屋を、公益法人等 8 団体に貸し付けた。

Ⅲ 法人の管理運営に関する事項

1 評議員及び役員等に関する事項

令和 6 年度の評議員及び役員等は、令和 7 年 4 月 1 日現在、それぞれ次のとおりである。

(1) 評議員

大 杉	立	(東京農業大学客員教授)
春 見	隆 文	((一財)日本醤油技術センター理事長)
菊 地	敦 子	((一財)公務人材開発協会理事)
古 在	豊 樹	(千葉大学名誉教授)
佐々木	昭 博	(東京農業大学農生命科学研究所参与(客員教授))
佐 藤	洋 平	(東京大学名誉教授)
染	英 昭	(穀物乾燥貯蔵施設協会理事長)
中 嶋	康 博	(女子栄養大学教授)
松 本	光 人	(元農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所所長)
八 代	徹 也	(弁護士)
吉 田	岳 志	((公社)大日本農会会長)

計11名

(2) 理事及び監事

理事長	田 家 邦 明	
常務理事	菅 原 誠 治	
理 事	市 田 知 子	(明治大学農学部教授)
	大 野 高 志	((公社)日本食肉格付協会会長)
	岡 島 敦 子	(元内閣府男女共同参画局長)
	小 澤 健 二	(元(公財)日本農業研究所研究員)
	河 原 昌一郎	((公財)日本農業研究所研究員)
	生源寺 眞 一	((公財)日本農業研究所研究員)
	西 尾 健	(法政大学名誉教授)
	西 澤 直 子	(石川県立大学参与)
	町 田 勝 弘	((公財)日本農業研究所研究員)
	松 本 聰	(東京大学名誉教授)

計12名

監 事

	高 濱 正 博	(元食品産業中央協議会常任理事)
	吉 國 隆	((一財)大日本蚕糸会顧問)

計 2 名

(3) 顧問

岸 康 彦
服 部 信 司
八 木 宏 典

計 3 名

2 評議員会及び理事会等

令和6年度においては、評議員会、理事会及び監事監査は、次のとおり開催された。

(1) 評議員会

「第1回」令和6年6月17日

出席者 10名（評議員総数10名）

付議され承認された議案

- ① 令和5年度決算書類に関する件
- ② 評議員の補欠の選任に関する件
- ③ 理事及び監事の選任に関する件

その他報告事項

- ① 令和5年度事業報告に関する件（令和6年5月27日理事会決定）
- ② その他

「第2回」令和7年3月25日

出席者 10名（評議員総数11名）

付議され承認された議案

- ① 令和7年度事業計画書及び収支予算書に関する件
- ② その他

(2) 理事会

「第1回」令和6年5月27日

出席者 10名（理事総数12名）

付議され承認された議案

- ① 令和5年度事業報告及び決算書類に関する件
- ② その他

「第2回」令和7年6月17日

出席者 9名（理事総数12名）

付議され承認された議案

- ① 理事長及び常務理事の選定に関する件
- ② その他

「第3回」令和7年3月10日

出席者 11名（理事総数12名）

付議され承認された議案

- ① 令和7年度事業計画書及び収支予算書に関する件
- ② 評議員会の招集に関する件
- ③ その他

(3) 監事監査

令和6年5月15日

出席者2名（監事総数2名）

付議され承認された議案

令和5年度事業報告及び決算書類に関する件

3 職 員

令和7年3月31日現在の職員数は、次のとおりである。

本 部 研究員8名、総務部長（兼）1名、参事1名、主事補1名

計11名

実験農場 研究員2名

計2名

4 図 書

令和6年度における図書資料の受入れ状況は、下表のとおりである。

令和6年度収書数

区分	雑 誌 等			単行書（冊）			備 考
	和	洋	計	和	洋	計	
購入	113	0	113	9	2	11	
受贈	274	0	274	13	0	13	
計	387	0	387	22	2	24	

蔵書数

区 分	数 量	備 考
単行書前年までの累計数	21,289 冊	
令和6年度廃棄数	0 冊	
令和6年度登録数	24 冊	購入、寄贈等
単行書計	21,313 冊	

(注) 資料類には研究報告、紀要、資料等が含まれる。

IV 事業報告附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の内容を補足する重要な事項はないので、附属明細書は作成しない。

別 添

(参考) 令和6年度における主要調査研究成果

* 『農業研究』 (日本農業研究所研究報告第37号)、令和6年12月、B5、505頁

目次内容

- ・ 第31回 (令和5年度) 日本農業研究所賞の選考経過報告 (三輪睿太郎)
 - ・ 世界食料需給中長期見通し: 再考 (坪田邦夫)
 - ・ 政策の論文に現れた学会の特色: 三つの学会の比較 (生源寺眞一)
 - ・ 食料・農業・農村基本法について (町田勝弘)
 - ・ 中国の食糧安全保障政策 (河原昌一郎)
 - ・ 牛乳の価格形成と需給調整 (矢坂雅充)
 - ・ 改正基本法を受けた「合理的な費用を考慮する仕組み」の課題について (田家邦明)
 - ・ 森林の循環的利用の確保のための更新の促進について
— 森林法と森林経営管理法の連携 — (田家邦明)
 - ・ わが国近世までの牛馬飼養の歴史 下 (岩元明久)
 - ・ 自給飼料を利用した和牛繁殖の実証的調査研究 (12) (吉岡修、岩元明久)
 - ・ 2020年の法改正による農業者年金制度の検討 (森田明)
 - ・ 中山間地域の集落営農法人の展開方向一定点観測2-3- (山浦陽一)
 - ・ 八丈島の花弁栽培農家の研究 (その1) (小澤卓)
 - ・ 2024年夏におけるコメの品薄の要因と課題
— 「令和の米騒動」と呼ばれた事象をめぐる総合的研究 — (小川真如)
- [特別寄稿]
- ・ 杉 穎夫さんの講話「ジーンバンクができるまで」 (西尾敏彦)
- [令和5年度 人文・社会科学系若手研究者助成事業]
- ・ 小規模生産者による農業実践と世界農業遺産の保全に関する報告
— 徳島県「にし阿波の傾斜地農耕システム」を事例に — (北野真帆)
- [アジア食料農業政策研究会報告]
- ・ 変容するアジア食料農業と農政 (まとめ) (坪田邦夫)

* 『農業研究』 (別冊) 第12号、令和6年7月、B5、81頁

令和6年度日本農業研究所講演会記録 (1)

食料・農業・農村基本法の改正と今後の政策の進め方について

(講師 杉中 淳)

(解題 町田 勝弘)

* 『農業研究』 (別冊) 第13号、令和6年12月、B5、184頁

令和6年度日本農業研究所講演会記録

目次内容 (敬称略、講演会開催順)

社員から社員へ繋ぐ、持続可能な農産業の実現

～サラリーマン農業でイキイキと活躍する会社へ～ (講師 藤本 孝介)

(解題 河原昌一郎)

データ駆動型農業とは何かー農業経営の実践から見えてくるものー

(講師 横田 修一)

(解題 岩元 明久)

日本の食料安全保障管見－3つのコトバの呪縛－

(講師 坪田 邦夫)

(解題 生源寺眞一)